

質問書に対する回答

(工事名) 道央自動車道 社台川橋床版取替工事

質問事項と回答

番号	質問事項	回答
1	現場打ち RC 床版部のスタッドジベル溶植工はどの単価項目に含まれるのでしょうか。プレキャスト PC 床版工 プレキャスト PC 床版の架設単価項目に含めて計上するのでしょうかご指示願います。	現場打ち RC 床版部のスタッドジベル溶植工については、土木工事積算基準土木工事積算基準（令和 3 年度版（東日本高速道路株式会社、中日本高速道路株式会社、西日本高速道路株式会社））第 34 編第 18 章 12. プレキャスト P C 床版架設工に記載のとおり、プレキャスト P C 床版の架設に含まれます。
2	間接工事費の工種区分について 間接工事費の工種区分は、「修繕 PC 橋梁」を採用されているのでしょうか。	間接工事費の工種区分については、土木工事積算基準（令和 3 年度版（東日本高速道路株式会社、中日本高速道路株式会社、西日本高速道路株式会社））第 34 編第 18 章 5. 諸経費算定の適用工種区分に記載のとおり、P C 橋梁（修繕）となります。
3	社台川橋 P2～A2 間（ワイヤーソー）切断方法について 図面（124/191）【訂正版】社台川橋（下り線）P2～A2 間床版切断長では橋軸方向の 34.403（平均長さ）×2 本はコンクリートカッターで計上されておりますが、図面（127/191）上り線では、橋軸方向ワイヤーソー切断で計上されております。 上り線と下り線で切断方法が異なっておりますが図面記載数量で宜しいのでしょうか。	令和 3 年 12 月 6 日付の訂正公告の図面（124/191 及び 127/191）の床版切断表の備考欄にワイヤーソーと記載している延長となります。

4	<p>社台川橋 P2～A2 間（ワイヤーソー）切断切断面積について 図面（128/191）社台川橋（上り線）P2～A2 間ワイヤーソー切断面積の計算式で床版部の厚さが地覆下の床版厚さとなっております。 ワイヤーソー切断厚さのご確認をお願いします。（切断孔と一致しません） 0.271m⇒0.303m 0.292m⇒0.304m</p>	<p>令和3年12月6日付の訂正公告の図面に記載とおりです。</p>
5	<p>シールスポンジについて 図面に材料表（例社台川橋図面 19/191）シールスポンジの仕様・規格に B=40 mmとありますが、幅 40 mmと考えて宜しいでしょうか。 寸法を御教示願います。</p>	<p>シールスポンジの幅については図面に記載のとおり 40mm となります。</p>
6	<p>特記仕様書 19頁 19-2 建設副産物の活用等 コンクリート塊（有筋）・床版および地覆・壁高欄・伸縮装置後打ち部は、撤去材置き場で小割し、中間処理施へ運搬と記載がありますが、撤去材置き場の指定がございません。小割作業を行う撤去材置き場の場所等について御教示願います。</p>	<p>特記仕様書 P21 19-3(2)に記載のとおり、再資源化（最終処分）をする施設の受入条件として小割が必要となっていることから、小割を行う場所として撤去材置き場と記載しています。撤去材置き場については御社にて準備願います。</p>
7	<p>社台川（下り線）図面 111/191 数量表について 桁端部弛緩長低減部材構造図（その5）111/191 数量表のブラケット B 小型部材の合計数量が間違っていると思います。ご確認をお願いします。258 k g ⇒1,136 k g</p>	<p>ブラケット B 小型部材の合計数量については、ご質問のとおり 1,136 k g が正解となります。</p>
8	<p>桁端部支間長低減部材の塗装面積について対象（全6橋） 図面特記欄に、摩擦接合完了後の補修塗装は、既設橋梁本体と同様の塗装を施す。（例社台橋図面 67/99）とございます。数量表（例社台橋図面 68/99）の現場塗装面積は摩擦ボルト接合部添接板（補強部材取付部）の面積と思われます。各桁端部支間長低減部材本体の塗装面積を御開示願います。各橋脚の数量総括表記載の塗装面積数</p>	<p>各桁端部支間長低減部材本体の塗装面積については、貸与資料の床版取替設計報告書の材料計算書に記載しているとおりととなります。 補修塗装については、土木工事積算基準（令和3年度版（東日本高速道路株式会社、中日本高速道路株式会社、西日本高速道路株式会社）第15編 4.鋼構造物の防錆 4-3(2)補修塗装（タッチアップ）に記載のとおりとなります。</p>

	量に含まれているのでしょうか御教示願います。	
9	桁端部支間長低減部材の工場塗装面積について対象（全6橋） 桁端部支間長低減部材は添接材部分を除き工場塗装かと思われ ます。工場塗装、現場塗装のいずれでお考えでしょうか。	各桁端部支間長低減部材本体の塗装面積については、貸与資料の床 版取替設計報告書の材料計算書に記載しているとおりと なります。
10	労務費補正対象について 特記仕様書 P.25(1)補正係数による補正①労務費の補正0.05% 設 計金額における労務費とございますが、特-(6)詳細設計費の労務費 も対象でしょうか。	詳細設計の労務費については、労務費補正の対象外と なります。
11	コンクリート配合について（全6橋） 単価項目 P6-5 コンクリートの配合について（例社台橋図面 17/99） スタッドジベル用孔詳細図にスタッドジベル孔間詰めコンクリート （膨張材入り）と記載がございます。 特記仕様書 P.34 26-5-1 構造物用コンクリート P6-5 使用構造物 に記載の対象構造物、プレキャスト PC 床版の接合部、現場打ち PC 床版部も膨張材入りの配合でしょうかご教示願います。	設計要領第二集橋梁保全編 5 章床版 4-11 使用材料 に記載のと おり収縮補償用コンクリートとなります。
12	プレキャスト製コンクリート防護柵無収縮モルタルについて（対象 全6橋） プレキャスト製コンクリート防護柵設置時の固定インサート部、底 面部、目地部の各モルタル設計注入量及び型枠面積を御開示願いま す。	単位当たりのモルタル設計注入量は、型枠固定インサート部（側面） が 0.0029m ³ /箇所、型枠固定インサート部（底面）が 0.0042m ³ /箇 所、底面部が 0.0096m ³ /m、目地部が 0.0054m ³ /箇所となります。 単位当たりの型枠面積は、型枠固定インサート部（側面）が 0.0667 m ² /m、型枠固定インサート部（底面）が 0.0479m ² /箇所となりま す。なお、底面部及び目地部には型枠はありません。

13	<p>プレキャスト製コンクリート固定インサート部接着剤について（対象全6橋）</p> <p>プレキャスト製コンクリート防護柵設置時の固定インサート部の無収縮モルタル充填部に塗布する接着剤の仕様、設計塗布数量、対象面積を御開示願います。</p>	<p>接着剤は、エポキシ樹脂系接着剤です。</p> <p>なお、塗布量は、0.8 kg/m²以上とし、各箇所的设计面積は型枠固定インサート部（側面）が 0.089m²/箇所、型枠固定インサート部（底面）が 0.122m²/箇所となります。</p>
----	---	--